

これからのインテリアはどう変わる？

www.elle.co.jp/decor/

ELLE DECOR

JAPAN
no.166

エル・デコ
AUGUST
2020
the world's
leading
design &
lifestyle
magazine

これからの インテリア INTERIOR SPECIAL



プールが家の特等席
昭和建築はホテルで巡る
ガムフラテージの仕事術

Q.

部屋の片隅の
“一人コーナー”を
居心地よくする方法は？

A.

小さなペンダントライトで
空間に意味づけを

一人になれる空間を確保するために、
空きスペースに椅子を置いたけど落ち着かない……
そんなときには、小ぶりのペンダントライトが
ムードを変えるのに一役買ってくれる。
例えば、廊下のような単なる“機能的”な場所でも、
美しい照明が安らぎのための場の象徴となり
やわらかな雰囲気が生まれてくる。



右: ダブリンに拠点を置くキングストーン・ラファエルティデザインのクリエイティブディレクター、ロイジン・ラファエルティの自宅のリビング。
「照明は配する位置によっても部屋の雰囲気が変わるので、部屋をどんな風にしたいかよくイメージしてみてください」。左: ラファエルティは、大きな窓のある通路を読書用のコーナーとして活用。

CHANGE OF MOOD

オンオフの気分転換は 照明でムードを変える

昼間は仕事をしていたりリビングで、夜はくつろぐ。
そんな暮らしのなかでは、照明の役割はますます大きくなる。

Photos BARBARA CORSICO (Living Inside)
Text CHISATO YAMASHITA(p.96-99)

Q.

リビングルームの
雰囲気を変えるなら？

A.

存在感のあるペンダントライトと
サブのランプで多層的な光を

「リビングには、インパクトのある大きめのペンダントライトを選ぶと、
空間の縦軸が強調され、ドラマチックな雰囲気と遊び心が生まれます」と話すのは
アイルランド・ダブリンを拠点に活動するデザイナーのロイジン・ラファエルティ。
自宅のリビングでは洗練されながらも心地よい空間を目指し、ペンダントライトの
雰囲気に合わせたアンティークやミッドセンチュリーの家具を配している。
読書などにはフロアランプなどで光を補うと、多層的な明かりで空間に真行きが。

